第2回委員会時に提示した 具体的な取り組み第3期戦略(案)	具体的な取り組み第3期戦略(事務局案) 赤字 : 変更した取組案を示す	実施を想定する 特に主体となるコ ミュニティ	関係するコミュニ ティ	第2回委員会 意見	事務局見解	数値目標 ※参考数字として把握するもの
作戦1 「まずは知る」作戦！ 地域のみなが、地域の自然の豊かさや脆さをわかるようにします。						
目標1.生きものの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。		目標1.生きものの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。				
①豊岡に住む生きものや植物の市民調査を実施します。	①豊岡に住む生きものや植物の市民調査を実施します。	団体 行政	地域・市民 専門家 地域コミュニティ			※市民調査の実施回数 メディア掲載件数
②豊岡らしい季節のことばを集めた「豊岡時候のあいさつ集」を作成します。	②豊岡らしい季節のことばを集めた「豊岡時候のあいさつ集」を作成します。	団体				
③季節の特徴的な生きものや植物の観察会を開催します。	③季節の特徴的な生きものや植物の観察会を開催します。	各主体				※観察会の実施数 (トビックス的に特徴的な取組など)
④「生きもの共生の日」の周知に努めます。	④「生きもの共生の日」の周知に努めます。	行政	地域コミュニティ 団体			※市民への周知回数
目標2.「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。		目標2.「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。				
①「豊岡生きもの博士」登録制度を開設します。	①「豊岡生きもの博士」登録制度を開設します。	団体	専門家 行政	信頼性は担保できるか。	生きものについて精通している方というよりも、生きものが好きな方の励みになるような顕彰的な位置づけでの「豊岡生きもの博士」を考えています。	
②継続的な学習会等を通じて生きもの博士を育成します。	②継続的な 観察会 等を通じて生きもの博士を育成します。	団体	専門家 行政			
③未来の「生きもの博士」を目指し、生き物に関心のある子どもたちに継続的な学習の場を提供します。	③子どもたちに 様々な自然体験 ができる場を提供し、 未来の「生きもの博士」を育成 します。	行政	団体 専門家	②にまとめてはどうか。⇒視点の違いで分けている。(事務局)⇒戦略では違いを明記するといいいのでは。 ・コウノトリKIDS+はどのようにするのか。⇒中学生以上も支援していきたい。	②と③の違いを取組に明示しました。	※コウノトリKIDSクラブの継続実施
④豊岡の環境保全に寄与する研究活動を支援します。	④豊岡の環境保全に寄与する研究活動を支援します。	行政				※高校生等地域研究支援事業取組校数
目標3.地域の生きものの現状をみんなが知っています。		目標3.地域の生きものの現状をみんなが知っています。				
①既存のアプリ等を活用して、生きもの情報の見える化を図ります。	①既存のアプリ等を活用して、生きもの情報の見える化を図ります。	行政 団体 専門家 地域コミュニティ	地域・市民 学校・PTA	アセスの情報を一元管理できる仕組みが構築されるという。県ではバイオームを導入した。環境省RLはマスクされている。情報の共有については、メーカーとの調整が必要になる。誰が集約するのか。情報収集および管理の方法については次回までに検討するように。	どのような情報を整理・発信するのか、方針について、今後検討していきます。	
②その情報を、公共工事や自然再生の取組みに活用します。	②その情報を、公共工事や自然再生の取組みに活用します。	行政 団体	地域・市民 専門家 団体			(見える化が出来た後) ※生きものに配慮した公共工事・自然再生の実施件数
③「コウノトリ市民科学」などによるコウノトリのモニタリング調査を実施し、情報を発信します。	③「コウノトリ市民科学」などによるコウノトリのモニタリング調査を実施し、情報を発信します。	団体 専門家	地域・市民			※コウノトリ市民科学における目撃情報の投稿回数
	※作戦3-目標1④より移動 ④ 森里川海のつながり を知り、生態系への意識を深めます。	地域・市民 農林水産業	行政		生物多様性を正しく理解するためにも、「森里川海のつながり」を理解する必要があります。	※森里川海のつながりに関する周知回数

第2回委員会時に提示した 具体的な取り組み第3期戦略(案)	具体的な取り組み第3期戦略(事務局案) 赤字:変更した取組案を示す	実施を想定する 特に主体となるコ ミュニティ	関係するコミュニ ティ	第2回委員会 意見	事務局見解	数値目標 ※参考数字として把握するもの
目標4.小学校区ごとに「生きもの地図」が備えられています。	目標4.小学校区ごとに「生きもの地図」が備えられています。					
①地域や学校と連携して、地域の「生きもの地図」の作成に取り組めます。	①地域や学校と連携して、地域の「生きもの地図」の作成に取り組めます。	学校 地域・市民 団体 地域コミュニティ				※生きもの地図の作成団体数
②「生きもの地図」の作成、活用に関する支援を行います。	②「生きもの地図」の作成、活用に関する支援を行います。	行政 団体 専門家				
作戦2「行動に移す」作戦！ 多様な生きものが住みやすい環境を増やします。						
目標1.行政も地域も、生きものに配慮した行動を心がけています。	目標1.行政も地域も、生きものに配慮した行動を心がけています。					
①県が策定している「生物多様性配慮指針」を公共事業や自然再生の取組みに活用します。	①県が策定している「生物多様性配慮指針」を公共事業や自然再生の取組みに活用します。	行政	地域・市民 団体 事業者			※生物多様性配慮指針を活用した取組件数
②生物多様性保全のためにも「豊岡市景観計画」を推進します。	②生物多様性保全のためにも「豊岡市景観計画」を推進します。	行政	地域・市民 事業者			
③生物多様性「MY_行動宣言」の周知と、行動に移す市民を増やします。	③生物多様性を意識した、行動に移す市民を増やします。	行政	地域・市民		My行動宣言の見直しが検討されているため、表現を見直しました。	
④ネイチャーポジティブの実現へ、行動変容につながる仕組みを作ります。	(削除)			ネイチャーポジティブをどう捉えている？⇒わかりにくい表現は改善する。(事務局)⇒30by30の表現に変えてみたらどうか？湿地や草原等の限定的な場所にも言及したらどうか？専門用語は出来るだけ避けるように見直す。(事務局)	戦略自体がネイチャーポジティブにつながる施策のため、削除します。	
	※作戦2-目標4-④より表現を変えて移動 ④生物多様性の保全に取り組む企業・団体等を増やします。	行政 事業者 団体 専門家	地域・市民 農林水産業			※生態系保全活動CSR実施企業数 ※OECMの取組企業数
	※作戦3-目標1-③より表現を変えて移動 ⑤里山や水辺などで、小さな自然再生の取組を進めます。	地域コミュニティ 地域・市民		河川の改変とかでなく、川の場合の小さな自然再生は市民による工夫、ちょっとした遊びの中の工夫みたいところで取組める。この目標3をまるまる無くすのではなく、ピオトープ作りと川の小さな自然再生を盛り込んだ項目に何か変えていけないか 小さな自然再生事業を結び付けるのはイメージがつながりにくい。作戦2の中で、どこかに入れられるように検討してほしい	河川内での作業は、程度に関係なく、河川管理者への届け出が必要なため、注意が必要です。	※小さな自然再生の取組件数
目標2.豊岡で暮らすコウノトリたちが、安定して生活しています。	目標2.豊岡で暮らすコウノトリたちが、安定して生活しています。					
①コウノトリの生息環境の質を向上させます。	①コウノトリの生息環境の質を向上させます。	行政 地域市民 農林水産業	団体 専門家	ピオトープをもっと増やすこと、もっと多様な管理をしましょうということがあると、多様な生きものが住みやすい環境が増えるのではないかなと思う。	ピオトープの創出については、第3期開始時までには維持管理体制の構築が難しいことから、第3期短期戦略では取り上げないこととします。	※豊岡市内の繁殖ペア数と巣立ち数
②見守りなどを通じて、野外のコウノトリと地域との関わりを生み出します。	②見守りなどを通じて、野外のコウノトリと地域との関わりを生み出します。	行政	団体 専門家	近年は怪我個体が増えている。その場合の対応方針を明記したらどうか。⇒郷公園が策定している方針を周知するしかできない。(事務局) ・傷病鳥に対する対応がわからない。⇒現時点では戦略には取り込めないと考えている。(事務局)⇒戦略としては細かい気がする。⇒市としてのスタンスは示すべきかと思う。	傷病鳥への対応策は、兵庫県がHPで指針を策定しているため、戦略に記載することは見合わせます。 ただし、市として、今後も野外のコウノトリが増える環境づくりは必要なことと考えています。但し、傷病鳥への対応は市ではできないことであり、兵庫県と協調していきます。	
③「豊岡自然再生アクションプラン」に基づき、地域と連携した自然再生に取り組めます。	③「豊岡自然再生アクションプラン」に基づき、地域と連携した自然再生に取り組めます。	地域・市民 団体 専門家 行政	地域コミュニティ 学校・PTA			※アクションプランに取り組む地域数

第2回委員会時に提示した 具体的な取り組み第3期戦略(案)	具体的な取り組み第3期戦略(事務局案) 赤字:変更した取組案を示す	実施を想定する 特に主体となるコ ミュニティ	関係するコミュニ ティ	第2回委員会 意見	事務局見解	数値目標 ※参考数字として把握するもの
目標3.市街地・住宅地でも多くの生きものと触れ合うことができます。	目標3.市街地・住宅地でも多くの生きものと触れ合っています。				他の表現と合わせました。	
①プランターや庭で緑を生み出します。	①プランターや庭で緑を生み出します。	地域・市民				
②神社や公園が緑や生きものの拠点として機能するよう維持します。	②神社や公園が緑や生きものの拠点として機能するよう維持します。	地域・市民				
③公共施設や都市公園等を「水と緑の回廊」として機能させます。	③公共施設や都市公園等を「水と緑の回廊」として機能させます。	行政				
目標4.生物多様性の保全が図られている区域が増えています。	目標4.生物多様性の保全が図られている区域が増えています。					
①ラムサール条約登録エリアにおける保全やワイズユース(賢明な利用)の取組みを充実します。	①生物多様性の保全が図られている区域の拡大に努めます。	行政 事業者 団体	団体 専門家	国立公園や鳥獣保護区等もあるので、もっと広い表現してはどうか。	専門用語の表現を変更しました。	※OECM認定箇所数
②ラムサール条約登録エリアやOECMの登録・拡大に努めます。	②ラムサール条約登録エリアにおける保全やワイズユース(賢明な利用)の取組みを充実させます。	行政 農林水産業 団体	団体 専門家			※ラムサール条約エリアでの環境イベント開催数
③地域や学校教育でラムサール登録やOECMへの理解を深め、誇りを醸成します。	③地域や学校教育でラムサール条約湿地など国際的評価を得ている地域であることへの理解を深め、誇りを醸成します。	学校・PTA 地域コミュニティ 行政	地域・市民 農林水産業		専門用語を削除しました。	
④OECMIに取り組む企業を増やします。	(作戦2-1-④へ表現を変えて移動)					
目標5.在来の生態系を乱す外来種の侵入・増加を防いでいます。	目標5.在来の生態系を乱す外来種の侵入・増加を防いでいます。					
①生態系に影響を及ぼす、外来生物の駆除方針を定めます。	①生態系に影響を及ぼす、外来生物の駆除方針を定めます。	団体 専門家 行政				
②外来生物に対する知識を深め、効果のある対策を検討します。	②外来生物に対する知識を深め、効果のある対策を検討します。	団体 専門家 行政				
③豊岡版ブラックリストを用いた学習会を開催します。	③豊岡版ブラックリストを用いた学習会を開催します。	行政	団体			※学習会の開催回数
④外来生物への対策を強化するエリアを決め、積極的な駆除に努めます。	④外来生物への対策を強化するエリアを決め、積極的な駆除に努めます。	地域市民 行政				※駆除実施回数
⑤地域で行う「クリーン作戦・グリーン作戦」に、外来種対策をプラスすることを呼びかけます。	⑤地域で行う「クリーン作戦・グリーン作戦」に、外来種対策をプラスすることを呼びかけます。	地域・市民 行政	行政			※外来種対策を行った「クリーン作戦・グリーン作戦」の開催地区数
目標6.希少になった生きものや生態系に、個別の保護対策が進められています。	目標6.希少になった生きものや生態系に、個別の保護対策が進められています。			保護は個別の対策ではできないので、包括的に変更できないか⇒検討する。(事務局)	生態系を保全することは、結果として包括的な対策になることから、「個別の」を削除しました。	
①希少動植物に対する知識を深め、効果のある対策を検討します。	①希少動植物に対する知識を深め、効果のある対策を検討します。	団体 専門家 行政				
②豊岡版レッドリストを用いた学習会を開催します。	②豊岡版レッドリストを用いた学習会を開催します。	行政	団体			※学習会の開催回数
③希少動植物の保全に関わる人材の育成・確保に努めます。	③希少動植物の保全に関わる人材の育成・確保に努めます。	団体 専門家 行政				※保全活動への参加者数
④希少動植物の保全に努めます。	④希少動植物の保全に努めます。	団体 専門家 行政	地域・市民			※希少種保全エリアの数・面積・種の数
	⑤生態系に悪影響を及ぼす有害生物への対策を推進します。	行政		第一次産業のためとは異なる視点から、これは残すべきでは？	生態系への影響も多いため、残しました。植物の可能性もあるため、鳥獣から生物に変更しました。	

第2回委員会時に提示した 具体的な取り組み第3期戦略(案)	具体的な取り組み第3期戦略(事務局案) 赤字:変更した取組案を示す	実施を想定する 特に主体となるコ ミュニティ	関係するコミュニ ティ	第2回委員会 意見	事務局見解	数値目標 ※参考数字として把握するもの
作戦3「基盤を守る」作戦！ 地域を支える第一次産業を育てます。						
目標1.安心して第一次産業に従事できる基盤を作ります。	目標1.安心して第一次産業に従事できる基盤が作られています。				他の表現と合わせました。	
①農林水産業に悪影響を及ぼす有害鳥獣等(ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、カワウ、ブルーギル、ムラサキウニなど)への対策を強化します。	①農林水産業に悪影響を及ぼす有害生物への対策を強化します。	行政		ムラサキウニによる被害は確認されているか⇒事実関係を確認します(事務局)⇒数は増えているが、要因かは明確ではない。今までいなかったガンガゼが入ってきている	因果関係がわからない生物も存在するため、具体的な種名は削除しました。鳥獣以外も存在しますので、生物という表現に変更しました。	※シカ・イノシシの捕獲頭数 市内のシカ捕獲目標:6,500頭(8年連続達成) ※県民緑税を使った野生動物共生林整備事業の件数
②田んぼや水路などの水辺での生態系機能を高めます。	②田んぼや水路などの水辺での生態系機能を高めます。	農林水産業 行政	団体			※マルチトープ、水田魚道:●箇所
③水辺での自然環境に配慮した取組を推進します。	作戦2-目標1-⑤へ移動			第一次産業の川というのではなく、作戦2の中でどこか入れられるところがあればいいんじゃないか	作戦2-目標1-⑤へ移動しました。	
④森里川海のつながりを知り、生態系への意識を深めます。	作戦1-作戦3-④へ移動			作戦1では?⇒検討します(事務局)	作戦1-作戦3-④へ移動しました。	
目標2.田んぼの生態系が豊かになっています。	目標2.田んぼの生態系が豊かになっています。					
①「豊岡市農業ビジョン」に基づき、豊岡型環境創造型農業を拡大します。	①「豊岡市農業ビジョン」に基づき、 農業や化学肥料に頼らない環境にやさしい農法 を拡大します。	農林水産業 行政		農業や化学肥料に頼らない農業という表現は残してほしい⇒環境創造型農業が該当するが表現がわかりにくいことから、変更検討する(事務局) 県でも環境創造型農業の数値目標を立てているので、市でも反映したらどうか⇒一度整理します(事務局)	「環境創造型農業」から「農業や化学肥料に頼らない環境にやさしい農法」へ変更しました。 数値目標については、農林水産課でも立てていないことから、具体的な数値を掲げることは見合わせます。	
②田んぼづくりに関する意識改革に取り組みます。	②田んぼづくりに関する意識改革に取り組みます。	行政	団体 農林水産業			※豊岡型環境創造型農業の耕作面積 戦略上の目標値…51%以上(2021年度) 2021年度…38.1%
目標3.市民や消費者と交流する生産者の顔が輝いています。	目標3.市民や消費者と交流する生産者の顔が輝いています。					
①生産者と市民との交流機会を増やします。	①生産者と市民との交流機会を増やします。	事業者	地域・市民 団体 農林水産業 行政			JAが主催する交流事業の数 トビックス的に、消費者などが開催するイベントの紹介。 ※小学校でのコウノトリ育む農法の出張授業実施回数…11回(2021年度)
②生産者と全国の消費者との交流機会を増やします。	②生産者と全国の消費者との交流機会を増やします。	農林水産業 事業者	行政			交流事業の数
目標4.地元で採れたものを優先して食べる人が増えました。	目標4.地元で採れたものを優先して食べる人が増えています。				他の表現と合わせました。	
①地元産品を扱う店舗や料理店の数を増やします。	①地元産品を扱う店舗や料理店の数を増やします。	農林水産業 事業者				※豊岡型地産地消に関する相談件数 2019年以降:8件 ※豊岡型地産地消に係る補助件数・金額 2019年以降:8件、11,968千円 ※地元食材を使った飲食店企業への補助件数・金額 2019年以降:8件、7,839千円
	②「コウノトリの舞」認証品を選んで購入する市民が増えています。	農林水産業 事業者 行政			市内の有機農法等に取組む農家を応援するため、戦略に追加。 環境に配慮して栽培される「コウノトリの舞」認証制度について、更なる周知を図り、市民の行動変容と、生産者の意欲の向上につなげます。	※取組団体数と耕作面積。 現在24品目、50団体が実施中
②学校給食における地元産品利用割合の、更なる増加を目指します。	③学校給食における地元産品利用割合の、更なる増加を目指します。	農林水産業 行政		オーガニック的な要素に言及してはどうか?⇒課題が多いので、一度整理させてほしい(事務局)⇒現況の数値(地元産品の導入状況、オーガニックの割合)を整理して提示してほしい。	オーガニックの導入については、予算上の問題が発生することから、検討する時間が足りません。 有機農法の農産物の消費の拡大の視点から、戦略に②を追加しました。	※教委が毎年定める、地元産品導入率と達成状況 2021実績:30.8%、2022目標:36.3%
③保育園・こども園の給食などにおける地元産品利用割合の増加に取り組みます。	④保育園・こども園の給食などにおける地元産品利用割合の増加に取り組みます。	農林水産業 行政				
目標5.持続可能な森づくりが実施されています。	目標5.豊かな森が、里、川、海を育てています。					
①自伐型林業に携わる人が増えています。	①自伐型林業に携わる人が増えています。	農林水産業 行政				※自伐型林業実施面積
	②山の豊かさが海や川の豊かさの源であることが再認識され、 林業従事者と水産事業者などの交流が進んでいます。	行政 農林水産業 地域・市民 団体		農林水産従事者と誰との交流か分かるように、主体に「地域・市民」や「団体」なども入れてはどうか。	主体に加えしました。	

第2回委員会時に提示した 具体的な取り組み第3期戦略(案)	具体的な取り組み第3期戦略(事務局案) 赤字:変更した取組案を示す	実施を想定する 特に主体となるコ ミュニティ	関係するコミュニ ティ	第2回委員会 意見	事務局見解	数値目標 ※参考数字として把握するもの
目標6.漁港に元気な声が響き渡っています。						
①海の生態系保全回復に向けた取り組みについて推進します。	①海の生態系保全回復に向けた取り組みについて推進します。	農林水産業 行政				※海の生態系保全に関する取り組み実施件数
②プラスチックごみが生態系に与える影響に関する周知とその対策を講じます。	②プラスチックごみが生態系に与える影響に関する周知とその対策を講じます。	地域・市民 行政				※海辺の清掃活動実施件数
目標7.第一次産業を担う若い世代を育成します。						
①学校園では、環境に配慮した農業体験活動などを通して、第一次産業の魅力を伝えます。	①学校園では、環境に配慮した農業体験活動などを通して、第一次産業の魅力を伝えます。	学校・PTA 農林水産業	行政			※農業体験を行った小中学校割合 実施率:2017年は72%、18年は67%、19年は76%、20年は61%
②若手就職希望者に向けて、第一次産業の魅力をPRします。	②若手就職希望者に向けて、第一次産業の魅力をPRします。	農林水産業 行政				
③「豊岡農業スクール」などによる就農支援を行います。	③「豊岡農業スクール」などによる就農支援を行います。	行政				※農業スクールの累積卒業生数 2022年6月時点(10年目)で、28人が入校し、23人が卒業して市内で新規就農している。スクール卒業生を含めて、50歳未満の市内若手農業者数(研修生含む)は約60人
④行政がUターン者と農地や森林所有者とのマッチングの支援の仕組みについて検討します。	④第一次産業への従事を希望するUターン者の相談に応じられる体制を構築します。	農林水産業 行政		漁業者も含めてほしい⇒漁業が一番課題が多い。入れ込めるか検討する(事務局) 漁業者が元気になって、次の担い手が生まれるような、人材育成の仕組みという中々そこまでは難しいが、交流を通して、漁業に対するポジティブなものを生み出す。それをどっかで入れ込めないか	農地は、農家以外は取得できないため、現在は農家を紹介しての就労体験や農業スクールを案内しています。また、林業や漁業については、組合などの方が適切な相談に応じられることから修正します。	※マッチング件数 相談件数やマッチング内容
作戦4「つながる・つなげる」作戦！ 人と人、地域と人とのつながりを深めます。						
目標1.自然の中で遊ぶ子どもの姿をよく見るようになりました。						
①次世代を担う子どもたちを育てるため、自然とふれあう活動を充実させます。	①次世代を担う子どもたちを育てるため、自然とふれあう活動を充実させます。	団体 行政			他の表現と合わせました。	※子供対象自然体験イベントの開催数
②地域の方が講師となって、地域で行う「自然遊び教室」を実施します。	②地域の方が講師となって、地域で行う「自然遊び教室」を実施します。	地域コミュニティ 地域・市民				※「自然遊び教室」を開催した地区・団体数
目標2.親子で生きものや自然に触れ合う機会が増えています。						
①PTAの学年行事や子ども会行事などに、生きもの調査や自然観察を取り入れます。	①PTAの学年行事や子ども会行事などに、生きもの調査や自然観察を取り入れます。	地域・市民 学校・PTA				※PTAおよび子ども会主催の生きもの調査等実施数
②生きものや自然に触れる親子イベントを数多く企画します。	②生きものや自然に触れる親子イベントを数多く企画します。	地域・市民 団体 行政				※親子イベントの開催数
目標3.地域の文化や伝統的な知恵・技が受け継がれています。						
①祭事を通じて地域の文化や自然へのまなざしを醸成します。	①祭事を通じて地域の文化や自然へのまなざしを醸成します。	地域・市民 行政				
目標4.交流施設では、楽しい声が弾んでいます。						
①生物多様性について学び、体験できるプログラムを充実させます。	①生物多様性について学び、体験できるプログラムを充実させます。	地域コミュニティ 団体 行政				※交流施設で新たに開発されたプログラム数
②生物多様性に関係のある事業に取り組めるよう、支援します。	②生物多様性に関係のある事業に取り組めるよう、支援します。	団体 行政				※交流施設で、小さな自然再生事業を活用し、取り組まれた事業数

第2回委員会時に提示した 具体的な取り組み第3期戦略(案)	具体的な取り組み第3期戦略(事務局案) 赤字:変更した取組案を示す	実施を想定する 特に主体となるコ ミュニティ	関係するコミュニ ティ	第2回委員会 意見	事務局見解	数値目標 ※参考数字として把握するもの
目標5.コウノトリ野生復帰の取組みを知った国内外の人々との交流が深まっています。	目標5.豊岡の豊かな自然を知った人々の交流が深まっています。			コウノトリに言及した理由はあるか?⇒取組に野生復帰の内容が多かったため、変更した(事務局)⇒限定する必要はないのではないか⇒5年限定のため、残してもいいかと考えている⇒野生復帰と生物多様性を分けた目標にしてみたらどうか コウノトリ野生復帰は、もう終わったのではという中で、もう一度、軸に据える必要はある。	コウノトリの野生復帰との関連が低い海域や高原等を目的に訪れる人々もいることから、表現を修正しました。 作戦1-1-④「生きもの共生の日」の取組みを通じて、コウノトリが46年ぶりに屋外でふ化した当時の喜びを再確認する機会を作る。	
①コウノトリ野生復帰の取組みに参加する人を増やします。	①コウノトリ野生復帰の取組みに参加する人や、企業・団体を増やします。	行政	地域・市民 団体 農林水産業 事業者			※CSR実施企業数 ※OECMの取組企業数 ※出張田んぼの学校の開催数 実績:2018年度4件、2019年度3件、2020年度0件、2021年度3件
②コウノトリ野生復帰の取組みや豊岡の自然に共感して訪れる人と地域住民との交流機会を増やします。	②コウノトリ野生復帰の取組みや豊岡の自然に共感して訪れる人と地域住民との交流機会を増やします。	行政	地域・市民 団体 農林水産業 事業者	2回目の委員会で観光に関する意見があったが、どこに入っているか⇒表現が変わっていないが、ここが該当すると考えている(事務局)		※コウノトリツーリズムの体験者数 視察等の受入実績:2018年度7件、2019年度6件、2020年度1件、2021年度4件
③野生復帰の取組みに賛同して協力してくれる企業・団体などの拡大に努めます。	(削除)				作戦4-5-1に統合。	
③コウノトリのが飛来した地域の人々との交流により、生きものを大切に取る取組を広げます。	③コウノトリが飛来した地域の人々との交流により、生きものを大切に取る取組を広げます。	地域・市民 団体	行政			
⑤コウノトリ野生復帰の取組みなど、国内外で豊岡の魅力を語れる子どもたちを増やします。	④コウノトリ野生復帰の取組みなど、国内外で豊岡の魅力を語れる子どもたちを増やします。	行政 学校・PTA				
	作戦4-目標6-①から移動 ⑤海や山の保全活動に対して、様々な団体が参加・交流する機会を創出します。	行政		ダイビングなどの業種の人達が藻場の再生だったりとか、漁礁を作ってみたりだとか、環境の保全に関しては維持、再生しようと努力をしている。竹野でも、そういうことが出来ればなど常々思っている。	海や山の恩恵は広く行き渡っていることから、当事者以外にも保全活動に参加する機会の創出が必要です。	※様々な団体が参加・交流している保全活動の回数
	⑥生物多様性に富んだ、森里川海の魅力を知り、多くの人が訪れています。	農林水産業 事業者		ダイビングのように海に関わっている職種について、第一次産業ではなく観光産業になるが、そういった人たちの関係で何か生物多様性地域戦略の中に入れられないかと、気になっている。	追加しました。 事業者や地域・市民が保全に取り組んだ景観や豊かになった生態系に魅力を感じて訪れる人が増え、さらなる保全につながる好循環を目指します。	※観光入り込み客数
目標6.人も自然も森里川海のつながりを持っています。	(削除)					
①海や山の保全活動を通じ、林業従事者と漁業従事者などの交流の機会を創出します。	作戦3-目標5-②へ移動					
作戦5「効果を高める」作戦！ 作戦を実行しやすいしくみをつくります。						
目標1.行動のすべては、「見直し」の手法で実践されています。	目標1.行動のすべては、「見直し」の手法で実践されています。					
①PDCAサイクルの手法を取り入れます。	①PDCAサイクルの手法を取り入れます。	行政				
目標2.この戦略の実践を支える拠点が機能しています。	目標2.この戦略の実践を支える拠点が機能しています。					
①市役所を中心に拠点を定め取組みを推進するため、定期的な情報交換を行う機会の設置します。	①市役所を中心に拠点を定め取組みを推進するため、戦略推進委員会や定期的な情報交換を行う機会の設置に努めます。	行政	地域・市民 団体 専門家	機会では曖昧なため、委員会などの具体的な表現にしてはどうか⇒庁内でコンセンサスがとれていないため検討する(事務局)	戦略推進委員会設置を追加しました。	
②生物多様性に寄与する、地域での保全活動に外部人材をつなぐ仕組みを検討します。	②生物多様性に寄与する、地域での保全活動に外部人材をつなぐ仕組みを検討します。	行政 団体				
				生物多様性に特化した部署・人材を作るべきでは地域おこし協力隊をまず立ててもありではないか 海・山の項目をもっと増やしてみようか	推進体制の強化については、人材に限られた中で、枠外の組織づくりも含め、実施可能な体制は検討する必要がある	